

九州大学大学院言語文化研究院主催 講演会のお知らせ

「スペインにおける都市計画・観光地理学・言語政策：EU圏地域研究の最新事例」

趣旨 このたび、地理学研究において国内外で高い評価を得ている、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学 Universidad de Santiago de Compostela（以下、USC）の地理学スタッフに、EU圏の地域研究や言語政策についての最新の研究成果を九州大学で報告してもらうことになりました。

ルベン・ロイス主任教授は、スペインの都市を対象とした都市計画や地域開発、またそれに伴う社会の変化について多くの研究業績を持ち、近年では、開発と歴史遺産や自然の保全の両立、また持続可能な発展の在り方を模索されています。スペイン社会は、EU内の共通通貨であるユーロ導入後に急速なバブル的経済成長を見た後、リーマン・ショック後には一転して経済危機に陥るなど、過去10年ほどの間に急激な変容を遂げており、その間の地域開発の在り方の変化は、今後の世界各地の開発を考える上でも示唆に富む事例となるでしょう。

シヨセ・サントス教授は、USCの観光学研究所所長として、世界中から巡礼者が集まることで知られるカトリックの聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂への巡礼路を中心に、歴史的・宗教的遺産がどのように観光や地域の活性化に活用されているのかを研究されています。関心の対象は、歴史的・宗教的事象から寺院や彫刻の修復・保全、巡礼のための宿泊所や施療院の運営、同巡礼路が世界遺産に認定される前後の状況や、著名なワインの産地である周辺地域のアグロ・ツーリズムとの関連など、極めて多岐に渡り、今回の講演は今後の九州の観光の在り方考える上でも参考となるでしょう。

バレリア・パウエル研究員は、多言語国家であるスペインにおける言語政策を研究されています。今回の講演では、スペイン語（カスティーリャ語）とカタルーニャ語、スペイン語とガリシア語といった、二重言語地域における言語政策、特に言語教育が、開発や発展に伴う社会の変化の中でどのように変容していくかを扱います。

本講演会では、それぞれがご専門とする都市計画、観光地理学、言語政策についてお話していただきます。本講演会は、EU圏での地域研究や言語政策について、最先端の研究に直接触れる貴重な機会となるでしょう。ご関心のある方は奮ってご参加ください。

開催日時 平成 25 年 8 月 8 日 (木) 14 : 00 - 17 : 30

開催場所 九州大学西新プラザ 2 階 大会議室
<http://www.kyushu-u.ac.jp/university/institution-use/nishijin/>

講演プログラム

14 : 00 - 15 : 00 バレリア・パウル VALERÌÀ PAÛL (USC 研究員)
"A critical language geography of contemporary Spain. Spaces, policies and education models"
「現代スペインにおける言語地理的問題：空間、政治と言語教育モデル」

15:10-16:10 ルベン・ロイス RUBÉN LOIS (USC 地域地理学主任教授)
"Urban spaces and historic sites in the cities of Spain"
「スペインの都市における都市空間と歴史的旧市街」

16:20-17:20 ショセ・サントス XOSÉ SANTOS (USC 教授・観光学研究所所長)
"The Way to Santiago, a successful touristic product"
「人気観光商品としての世界遺産サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路」

17:20 - 17:30 閉会挨拶

18:00 - 懇親会

使用言語 なお、報告はすべて英語で行われます。

連絡先 講演会への出席を希望される方は、お手数ですが、7 月末日までに九州大学言語文化研究院 阿部俊大 (th-abe@flc.kyushu-u.ac.jp) までご連絡ください。その際、懇親会への出欠もお知らせください。